

修正箇所 ページ	行数(図)	項目	誤り箇所	修正後表記
11	32	建設産業について	漬負方式	請負方式
43	6	工事費の構成	(図5.3と図5.4が同じ図となっている。)	図5-3を差し替え、図5-4のカッコ内分譲マンションを一般事務所に訂正
52	12	建築積算業務の実際	表6.1と図6.1に示す。	表6.1と図6.2に示す。
54	35	建築積算業務の実際	埋戻して扱い、	埋戻しとして扱い、
66	5	建築積算業務の実際	長辺方向の鉄筋さは、	長辺方向の鉄筋長さは、
74	表6・8	建築積算業務の実際	副帯筋 $0.6 \times 7 \times 4 = 16.8$	$0.6 \times 7 \times 3 = 12.6$
74	表6・8	建築積算業務の実際	小計 <u>16.8</u>	小計 <u>12.6</u>
76	表6. 9	建築積算業務の実際	「鉄筋」D13 小計値 <u>16.36</u>	「鉄筋」D13 小計値 <u>10.36</u>
78	表6. 10	建築積算業務の実際	「鉄筋」:形状「中央下端筋」長さ <u>3.56</u> 、D13とD16間の <u>3.56</u> 、D19の <u>3.56</u>	「鉄筋」:形状「中央下端筋」長さ <u>3.19</u> 、D13とD16間の <u>3.56</u> 削除、D19の <u>3.19</u>
78	表6. 10	建築積算業務の実際	「鉄筋」:形状「中央下端筋」長さからの引き出し内、 $3.56 = 4.48(\text{梁長}) - 0.75(\text{梁長}/6) - 0.75(\text{梁長}/6) + 0.29(\text{余長})$	「鉄筋」:形状「中央下端筋」長さからの引き出し内、 $3.19 = 4.48(\text{梁長}) - 0.75(\text{梁長}/6) - 1.12(\text{梁長}/4) + 0.29(\text{余長})$
78	表6. 10	建築積算業務の実際	「鉄筋」:小計値 <u>28.27</u>	「鉄筋」:小計値 <u>27.90</u>
84	18	建築積算業務の実際	炭素等量	炭素当量
84	29	建築積算業務の実際	電炉	電気炉
84	31	建築積算業務の実際	高炉	高炉材
84	32	建築積算業務の実際	小型製鋼、大型製鋼	小型形鋼、大型形鋼
84	40	建築積算業務の実際	炭素等量	炭素当量
84	30	建築積算業務の実際	炭素等量	炭素当量
85	34	建築積算業務の実際	炭素等量	炭素当量
86	4	建築積算業務の実際	(5)低降伏点鋼材	(5)極低降伏点鋼材
88	33	建築積算業務の実際	表6・4 <u>490NN</u>	表6・4 <u>490N</u>
92	16	建築積算業務の実際	解けた	溶けた

100	30	建築積算業務の実際	表6・15 フレアK形	表6・15 フレアX形
100	29、31	建築積算業務の実際	表6・15 基線にこの記号	基線に <u>対称</u> にこの記号
113	5	建築積算業務の実際	<u>区分</u>	<u>区別</u>
120	図6. 65 断面図	建築積算業務の実際	(中心線が <u>梁</u> 芯で表示されている。)	(中心線が <u>壁</u> 芯で表示する。)
122	20	建築積算業務の実際	欠如なし	欠除なし
127	表6. 25	建築積算業務の実際	「壁」中、仕上「壁」:小計値 <u>180. 81</u>	「壁」中、仕上「壁」:小計値 <u>187. 02</u>
128	表6. 26	建築積算業務の実際	「壁」中、仕上「壁」:小計値 <u>174. 20</u>	「壁」中、仕上「壁」:小計値 <u>180. 23</u>
132	28	建築積算業務の実際	… <u>99ページ</u> (5) 欠如部分の…	… <u>114から115ページ</u> (5) 欠除部分の…
134	10	建築積算業務の実際	×0.50× 2]=4. 50m	×0.50× 2]=4. 50m
136	表6. 27	建築積算業務の実際	「天井」中、仕上「天井廻縁塩ビ」:△ (6.65×6.89)×2 L、ブラインドBOX △(1.75+0.15+0.15)×2	「天井」中、仕上「天井廻縁塩ビ」:(6.65 ±6.89)×2 L、ブラインドBOX △ (1.70+0.15+0.15)×2
140	表6. 29	建築積算業務の実際	「壁」中、主仕上「モルタル塗(EP塗 り)」:合計値 <u>213. 85</u>	「壁」中、主仕上「モルタル塗(EP塗 り)」:合計値 <u>189. 32</u>
140	表6. 29	建築積算業務の実際	「柱」中、主仕上「モルタル塗(EP-G塗 り)」:合計値 <u>19. 46</u>	「柱」中、主仕上「モルタル塗(EP-G塗 り)」:合計値 <u>19. 51</u>
148	6	建築積算業務の実際	<u>形上</u>	<u>形状</u>
152	31	建築積算業務の実際	図6. 52	図6. 77
161	21	建築積算業務の実際	表6. 24	表6. 33
162	32	建築積算業務の実際	砂利地業、砂利など	砂利地業、砂など
165	28	建築積算業務の実際	仕様 <u>区分</u>	仕様 <u>区別</u>
180	33	建築積算業務の実際	<u>185ページから189ページ</u>	<u>184ページから188ページ</u>
修正箇所 ページ	行数(図)	項目	誤り箇所	修正後表記
184	表6. 40	建築積算業務の実際	名称「鉄筋加工組立」中、 「数量」:407. 8、「金額」 <u>12,234,000</u>	名称「鉄筋加工組立」中、 「数量」:403. 0、「金額」 <u>12,090,000</u>
184	表6. 40	建築積算業務の実際	名称「④鉄筋運賃」中、 「数量」:407. 8、「金額」 <u>1,223,000</u>	名称「④鉄筋運賃」中、 「数量」:403. 0、「金額」 <u>1,209,000</u>
184	表6. 40	建築積算業務の実際	名称「計」中、⑧: <u>41,247,420</u>	名称「計」中、⑧: <u>41,089,020</u>

195	7	建築積算業務の実際	概略仮設計画	概略仮設計画
249	23	チェックおよびデータ分析	不用土処分量	建設発生土処分量
252	25	チェックおよびデータ分析	表10・7鉄骨 K_B /鉄骨階面積	表10・7鉄骨 k_g /鉄骨階面積
286	36~38	建築積算と施工技術	降状点強度	降伏点強度
287	11	建築積算と施工技術	降状後(降状比)	降伏後(降伏比)
287	25	建築積算と施工技術	極低降状点鋼	極低降伏点鋼
287	39	建築積算と施工技術	降状強度	降伏点強度
287	40	建築積算と施工技術	降状強度	降伏点強度
288	2	建築積算と施工技術	極低降状点鋼	極低降伏点鋼
292	3	建築積算と施工技術	…表11.3に示す。	…表11.4に示す。
293	7	建築積算と施工技術	…表11.4に示す。	…表11.5に示す。
319	5	環境配慮とコスト	昭和68年(1993年)	平成5年(1993年)
322	35	環境配慮とコスト	表15・5 (なし)	3・2 3)自然エネルギー 挿入
322	35	環境配慮とコスト	表15・5 (なし)	3・3 エネルギー・資源の有効利用
				1)エネルギーの有効かつ効率的利用
				2)負荷平準化
				3)搬送エネルギーの最小化
				4)照明エネルギーの最小化
				5)水資源の有効活用
6)適正な運転管理				

322	40	環境配慮とコスト	適性使用・適性処理	適正使用・適正処理
323	18	環境配慮とコスト	表15-6 2-2)外壁	構造体の耐久性
323	19	環境配慮とコスト	表15-6 2-3)窓の断熱	非構造体の合理的耐久性、更新性
323	20	環境配慮とコスト	表15-6 2-4)局所空調	維持管理の容易性
323	21	環境配慮とコスト	表15-6 2-5)エネルギー	(削除する)
323	36	環境配慮とコスト	適性使用・適性処理	適正使用・適正処理
325	18	環境配慮とコスト	表15-8 ⑤費用対効果(単純改修年)	表15-8 ⑤費用対効果(単純回収年)

5. 2 工事費の構成比率

工事費の構成を体系的に管理することにより、建築物の工種や部分に配分された金額を把握することが可能となり、予算等に対応したコストプランニングの参考にすることができる。

図 5.3、図 5.4 に分譲マンションと一般事務所の工事費構成率の事例を示す。建物用途により科目に配分される工事費と構成比率は異なり、設計に求められた仕様を踏まえてコストを管理するには、各科目の構成比率を建物用途に応じて適切に把握し、データ化することがポイントとなる。

また、実績データの科目金額やウエイトを資料化することも、コスト管理面では重要な情報となる。いずれにせよ工事費の構成を十分理解して内訳書に示すことは、実務においては不可欠である。

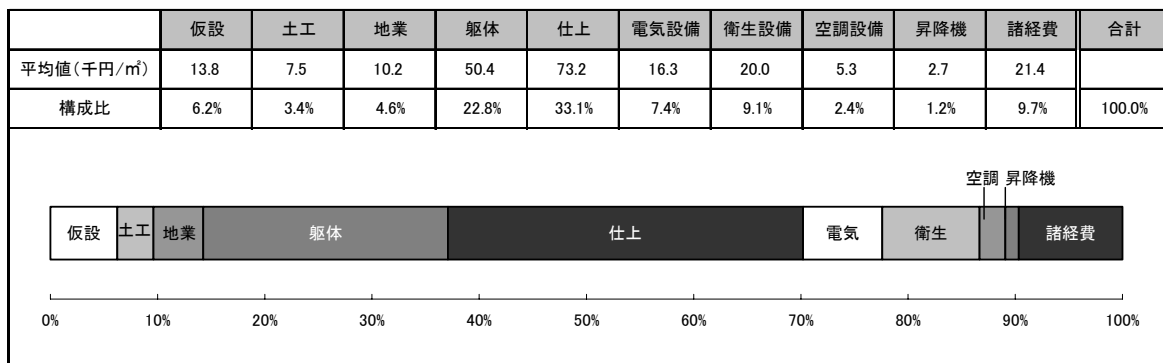


図5.3 科目単価の構成比率(分譲マンション 関東・東京圏) 出典「JBCI2009」

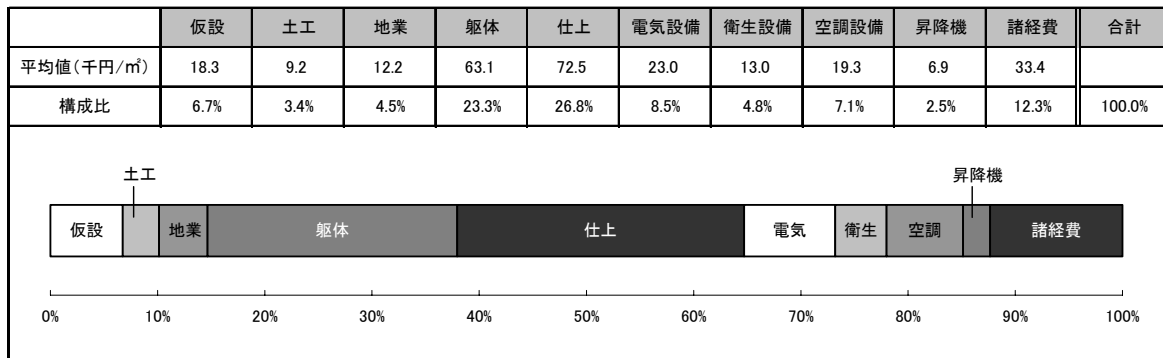


図5.4 科目単価の構成比率(一般事務所 関東・東京圏) 出典「JBCI2009」